

## talk! talk! talk! イラストレーター・福田利之さん



### イラストレーター 福田利之さん

糸井重里氏主催のウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」で連載中の、写真に描かれた愛らしくどこか不思議な雰囲気を持つキャラクターがとても楽しい人気コーナー「福田のフォト絵」。撮った写真の上にイラストを描き加えてしまうという「フォト絵」の作者は、イラストレーターの福田利之さん。大学生の頃からずっと描き続けてきたという「フォト絵」、その誕生のきっかけから作品づくりの面白さまで独特の世界についておうかがいした。

#### プロフィール

ふくだ・としゆき。1967年、大阪府生まれ。1989年、大阪芸術大学グラフィックデザイン科卒業。以後大阪を拠点に多数の個展を開催する。昨年からは東京にも拠点を置き、エディトリアル、広告の仕事を中心に活躍の幅を広げている。これまでの受賞歴にイラストレーションCHOICE入選、JACA展入選、サンヨウポスターデザインコンペ奨励賞他。2005年に初の作品集「チョコロム！」（パークエディティング）を発売。

大学生の頃から写真に絵を書く作品を作り始め、2004年から「ほぼ日刊イトイ新聞」で「福田のフォト絵」として連載開始。掲載枚数は350枚を超えている。また、3月からは福田さんがデザインしたという生地「csokolom! (チョコロム!)」の展覧会がシャムア（大阪）、カナカナ（奈良）、ハコ（葉山）、ロバロバカフェ（東京）で順次行われる。

#### ずっと側にあったカメラ「でも写真が大好きということにはなかつたんです」

今お使いのカメラはフィルムカメラなんですね。

はい、このニコン35Tiを中心に使いながら、最近はデジタルカメラも少し使ったりしています。35Tiはもらいものなんですよ。友達が出したCDのジャケットをちょっと描いてくれと言われて、そのお礼にもらいました。

ニコンの高級コンパクトカメラですね。

すみません、カメラについてはあまり詳しくなくて。

通常のコンパクトカメラと違って露出を変えられたり、レンズによりこだわったりしたカメラなんですよ。

そうなんですか。特にカメラにこだわりもないので、今持っているカメラに合わせて使っているだけなんです。このカメラは簡単に使えていいですね。露出もファインダーを覗いた状態ですぐわかりますし。

もう1台のカメラはニコンEMで、僕が一番最初に使っていたカメラなんです。中学生の頃に父親に買ってもらいました。

さすが、こちらはなかなか年季が入っていますね。

今もしっかり使えますよ。丈夫ですね。何回かはあの、ホールなんとか.....をしているんですけど。ホール、アウトでしたっけ？

ああ、オーバーホールですね（笑）。

そう、そうです（笑）。本当に詳しくなくてすみません。

それまで父親に何かを買ってもらったことってなかつたんですけど、初めて父親に買ってもらったのがニコンEMで。父がフォトグラファーだったものですから、その流れもあって買ってくれたんです。

お父様の影響でカメラを始めたのですか？

あ、いえ、そうではなくて、カメラを買ってもらったのは中学生当時にカメラブームみたいなものがあった、友達が持っていたので僕も欲しいと言ったんだと思います。父親がフォトグラファーということで、逆にそれまではカメラを拒絶していたんです。こう、親に反発してしまうような感じで.....

反抗期のような。

ああ、そんな感じかもしれません（笑）。カメラが嫌というより父親のしていることと違うことをしたいという感じだと思えます。だから、その後も写真を撮ってはいたんですが写真大好き、カメラ命！みたいな時期があったわけではないんです。弟が今フォトグラファーをしているんですが、僕は絵を描くことの方が好きだったのでずっと絵を描き続けてきました。「フォト絵」に關してもなんとなくカメラは側にあったので、言い方は悪いんですが利用してみるかというような気持ちだったんです。

#### 大学時代から書き続けてきた「フォト絵」は「よこしま」な動機で生まれた!?

その、撮った写真を活かしながらイラストを描き加えるという「フォト絵」ですが、描き始めたのはいつ頃からですか？

えーと、いつ頃だったかな.....。社会人になる前あたりに「イラストレーション」という雑誌の「ザ・チョイス」という誌上コンペに「フォト絵」を出して入選したことがあって、その時点で何枚か描いていたはずなので、たぶん大学4年生か3年生か、そのあたりからだと思います。

ちょうど大学3、4年ですから、卒業後の進路と言いますか、イラストを描いてどうやって食べて行こうかみたいなことを考えていた時期だったんです。その頃、赤瀬川源平さんたちが結成した路上観察学会の活動に影響を受けていまして、僕もこんなことをして生きられたら面白いなと思ったんです。

いろいろな街を散策をしながら、不思議な建物や看板などを見つけて写真を撮るというような活動ですよ？

はい。それが果たして就職につながるかと言ったら違うような気がするんですけど、その頃は街歩きをして、それが職につながりたいなと思っていましたよ。写真を撮るだけじゃなく、イラストを組み合わせる路上観察学会みたいなものができたら、もしかしたら食べていけるかなって考えたりしたんです。ですので、「フォト絵」は何かカッコいいアーティストっぽい理由がある訳ではなく、もっとよこしまな感じの（笑）、不純な動機で生まれたものなんですよ。



とても面白いきっかけだと思います。「ほぼ日刊イトイ新聞」に連載されるようになったのは2004年から、最近ですね。

そうですね。「フォト絵」はそれからもただの趣味と言いますか、それに近い世界でずっと描き続けていたんです。面白いものができたときに周りの人に見せて、感心を示してくれるとうれしいなという感じで。たまたま「ほぼ日」の今の担当の方に見せて面白く思ってください、糸井重里さんにそのとき初めて「フォト絵」という名前をつけていただいて連載を始めました。「ほぼ日」のおかげでようやく世間の目に届くようになったんです。



写真の上に絵を描く「フォト絵」。福田さんにタイトルと撮影地名を付けていただいた。「やかましポスト」/ハンガリー・ブダペスト

学生時代から描き続けてようやくという。

ええ、「ほぼ日」に掲載されるまではほとんど日の目を見ていないですから、ほんとに、誰にも喜ばれないものをずっとやってきたんだなあと思います(笑)。それでもここまでずっと描き続けてきたのは、正直"なんとなく"という部分もあるんですが、ただこのスタイルは自分のオリジナルだという意識が結構あったので、続けていかないといけないんじゃないかという気持ちもあったんです。



「象のすべり台」/大阪・中大江公園

### 「フォト絵」の原形は 子どもの頃に観た"かっぱのカーテン"

撮影には頻繁に出かけられるんですか？

基本的にわざわざ撮影に行くということではなくて、出かけるときには常にカメラを持ち歩いていて「いいな」と思ったものがあたら撮ると感じます。一緒に誰かいるときは「ちょっと撮っていいかな」と言える人だったら撮るし、言えない人だったら撮りません。

「いいな」と思っても撮らないのですか？

はい。「フォト絵」の場合はあまり気負わず気軽なスタンスで描ければいいと思っているんです。もしそのときにカメラを持っていかなかったらしょうがないですし、後でまた撮りに行くというようにすることもしなくて、さりげなく続けていければいいかなという感じなんです。一応、自分の中で決めている小さなルールがあって、写真は一期一会でそのときに撮れたら撮る、撮るものを動かしたりしてはいけない、ものがちゃんと写っているということが大前提なので逆光の場合やバックが同色でわかりづらいときなどはよほどのことがなければ撮りません。

こうやって描こうというアイデアは写真を撮る前に浮かぶのですか？それともプリントしてからですか？

最初の頃は先に何でも適当に撮って、あとで考えて描く方が多かったです。だんだん慣れてくるとある程度こんな形で描こうと浮かんでから撮る方が多くなりました。本当は、撮るときに作画的になるよりは、適当に撮ったあとに何か思いつきがあって、完成してみたら自分でもこうなるとは！という驚きがあった方がいいんですけどね。だからあまり慣れてしまうのはよくないなあと思います。

何枚かに1枚は自分で「これはいい！」っていう作品ができるんですが、昔はそれの連続だったんですよね。今そういうことは少ないので.....

それでも私たちは思いつきようのないイラストを重ねていたり、写真を見ただけでは完成イラストをまったく想像できない作品ばかりで、福田さんの想像力には驚かされてしまいます。

あの、今思い出したんですけど、昔カッパのカーテンという着ぐるみキャラクターが出てくるテレビ番組があって.....ピンポンパンだったと思うんですが、新兵ちゃんっていうおじさんが出て来る。

ああ、たぶんピンポンパンだと思います。子ども向けの番組ですよ。

そうです、そうです。その番組で、子どもが適当に描いた絵にカーテンが絵を描き加えて全く違う絵に仕上げるというコーナーがあったんです。たとえば子どもが三角形を描いて、カーテンがその三角形を使ってかっぱを描くみたいな感じで、子どもは毎回カーテンを困らせようと思ってるんですが、それでもカーテンは上手くその形を使って絵に仕上げるんです。子供心にもカーテンはすごいなと思って観ていたんですが、1回、子どもがぐるぐるぐるって真っ黒に書きなぐった事があって、カーテン悩んだんですけど結局うまくできなかったことがあるんですよ。

(笑) 絵が仕上がらなかったんですか？

はい。それは今でもすごく覚えていて、カーテンがその真っ黒いものをどう活かしていいのかわからずに、飛行機のジェット噴射の煙にしたんです。安易な絵で逃げたなあと思っていたら、それを見た新兵ちゃんも「これはダメだね」と言って、カーテンも「うん」と降参して(笑)、僕もそうやってカーテンを負かしたいなあとも思っていました。

そのコーナーのことはずっと頭に残っていたんです。原形をまったく違うものに変える面白さみたいなものを知ったのはカーテンの絵だったので、よく考えたらそれが「フォト絵」の元になっているのかもしれないですね。



こちらが「フォト絵」になる前の原形写真。さて、どんなイラストが入るでしょうか？.....答えはページ下に

### 各地を巡り 写真を撮り 写真を削って 絵を描く

写真に描かれているこの白いラインは、立体感がありますね。修正液のような.....あれ、これはもしかして削っているんですか？

そうです。写真を削って白いラインを描いています。カッターでコリコリコリと削って、紙の白い部分を出しています。その後、着色をしているんです。  
筆やペンを使うと、普段使い慣れている道具なのでラインが綺麗に描けてしまって面白くないんです。それよりもっと稚拙な感じを出したくて、カッターで削っています。長く描いているので最近少し削り方もこなれて来てしまって、やはり慣れはよくないなあと思うんですけどね。

写真を削っているなんて想像もつきませんでした。ところで「フォト絵」には撮影地が必ず付けられていますが、全国いろいろな場所で撮られているんですね。

国内はわりと行っていきますね。やり始めた当初、これをまとめて本にしたいという気持ちがあって、そのときに「日本中巡りました」みたいなものがあるといいかなくって、都道府県を回ったことがあるんです。その頃のストックが今も結構残っているのだからいろいろな土地の写真があるんです。

写真に地名を入れているのは、多少、その土地にちなんだ絵が描けると一番いいなと思っているんです。たとえば、徳島で撮った写真には阿波踊りの絵を描いてみたり。

この、禁煙の看板がタバコを吸っている作品も面白いですね。

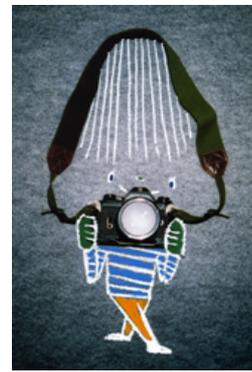
ええ、ご当地ネタを入れるか、こういう感じで写真と関連付けてちょっと意味をもたせたりするか、ダジャレでもなんでもいいんですけど（笑）、何か入れていけるといいかなと思います。

なるほど。結構考えられている作品なんですね.....。

やっぱり適当に描いているように見えますか（笑）？

あ、いえ、そういう意味ではないんです！さりげないスタンスで描かれているんですが、奥深い部分があるというのはさすがだなと！

いえ、ほんとに気楽に描いているものなので（笑）。ありがとうございます。



今回特別に、愛用のニコンEMで「フォト絵」を作っていた。なんと愛らしい「リトルニコン君」  
／東京・吉祥寺



禁煙の看板（右）がタバコを吸う人（左）に变身

#### 物を写真に撮り絵を描き込むことは 物に命を吹き込む作業

今回作品を拝見して、自分でも「フォト絵」を描いてみたいなと思いました。

ええもう、ぜひぜひ。これは誰でもできることだと思うんですよ。街を歩いていて「あれは顔に見えるな」と、ふと思ったことを実際に描いているというだけなので、特別な発想はいらないんですよ。みなさんやればできるのにたまたましていなかったというだけで、僕は何かたいそうなことはしてないの。

同じように「描いてみたい」と思った方にアドバイスをお願いします。

うーん.....どうせやるのであれば、ただ描くだけではなく、さっきのタバコみたいに描くものに意味を持たせてみたり、描くことでその写真に意味が出てくるようなものにする事で作品として面白くなるんじゃないかと思えます。

では最後に、福田さんにとっての写真とはなんですか？

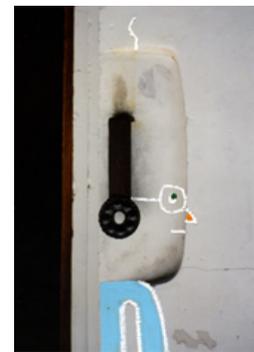
僕にとってはやっぱり写真は道具だと思います。「フォト絵」に関して言うと、通常絵を描く前に、キャンパスにいろいろな色を塗ったり工夫をして下地を作っていくんです。それと一緒に、写真を撮ることは、まず下地を作ることだと思います。

写真はキャンパスなんですね。

「ほぼ日」の担当の方に「フォト絵」を見ると「物には全て命がある」ということを感じると言 「そよぐ風」／京都・捨得  
われて、なるほどなあと思ったんです。すごく簡単な動機で始めたんですが、最近は描きながらそういうことを意識して作るようになってきたと思うんです。だから、偉そうに言わせてもらおうと、写真に絵を描くことで、その物に命を吹き込むという作業をしているような感じがします。

なるほど。物に命を。

あ、いや、でもそんなたいそうなものでは本当じゃないんです。基本的に気楽に、適当な感じでやっているなあ思っていたら結構ですので（笑）。僕も気楽に楽しんで描いていければいいなと思います。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.